

## 【1. 拠点の人員規模(イメージ)】

### ➤ 研究員等

研究分野(5) × 研究室数(5) × 1研究室規模(約10人) = 約250人

※1 研究室はグループ長、主任(上級)研究員、研究員、技術員、  
リサーチアシスタントで構成

※2 1分野5研究室については第2回田所委員提出資料を参考

### ➤ 大学院生等

研究分野(5) × 研究室数(5) × 1研究室(約6人) = 約150人

### ➤ 産学官連携・管理運営スタッフ

※産学官連携部門、管理部門、事務職員等

= 約200人

計 **約600人**

## 【2. 浜通り地域のイノベ構想関係機関全体の人員規模(イメージ)】

➤ 国際教育研究拠点 **約600人** + 既存拠点※の人員 **約400人** = **約1,000人規模**

※既存拠点の人員はJAEA(廃炉国際共同研究センター国際共同研究棟、櫛葉遠隔技術開発センター、大熊分析・研究センター、福島環境安全センター)、福島ロボットテストフィールド、福島水素エネルギー研究フィールド、福島県浜地域農業再生研究センター、福島県原子力災害伝承館、福島県環境放射線センターで構成

## 【3. 地域への関連雇用波及効果(イメージ)】

➤ 産学官連携により、拠点関連で**約5,000人規模**の雇用創出を目指す。

➤ 加えて、イノベーション・コースト構想の具現化で更なる雇用創出を目指す。

(参考) 鶴岡市サイエンスパーク：拠点の人員規模約150人 → 地域雇用者数約550人

神戸医療産業都市：拠点の人員規模約2,700人 → 地域雇用者数約11,000人

# 国際教育研究拠点の人員規模について②(先行事例)

事例	研究者・スタッフ数	学生数	関連雇用者数等	備考
山形県鶴岡市 サイエンスパーク (慶應大学先端生命科学研究所等)	約150人 ※慶應義塾大学先端生命科学研究所の所属者数	約30人 ※慶應義塾大学先端生命科学研究所の所属学生数	約550人 ※研究者・スタッフ数を含む ※鶴岡市人口:約12.5万人	・1996年に庄内に新しい大学を設置する方針を決定
福島イノベーション・コースト構想 (浜通り地域の既存拠点)	約400人 ※大熊分析センターの完成時見込み数含む	—	(約13,000人) ※雇用者数ではなく避難指示解除区域の居住者数	・2014年構想開始 ・JAEA廃炉国際共同研究センター ・JAEA楡葉遠隔技術開発センター ・JAEA大熊分析・研究センター ・JAEA福島環境安全センター ・福島ロボットテストフィールド ・福島水素エネルギー研究フィールド ・福島県農業総合センター ・東日本大震災・原子力災害伝承館 ・福島環境創造センター環境放射線センター
千葉県柏市柏の葉国際 キャンパスタウン (東京大学、千葉大学等)	約2,300人	約1,800人 ※東京大学・千葉大学(柏キャンパス)の所属学生数	(約18,000人) ※雇用者数ではなくキャンパスタウン区域内の人口 ※柏市人口:約43.1万人	・2006年構想開始
神戸医療産業都市 (理研、神戸学院大学等)	研究者:約2,700人	約9,700人	約11,000人 ※研究者・スタッフ数を含む ※神戸市人口:約151.9万人	・1998年構想開始 ・学生数は甲南大学ポートアイランドキャンパス、神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、神戸大学先端融合研究環統合研究拠点、兵庫医療大学、神戸女子大学ポートアイランドキャンパス、神戸女子短期大学、兵庫県立情報科学キャンパスの所属学生数の合計
筑波研究学園都市 (筑波大学、各国研等)	約10,000人 ※市内に立地する公的研究機関(29機関)に勤務する研究者の人数	約16,500人 ※筑波大学所属学生数	(約78,000人) ※雇用者数ではなく研究学園地区内の人口 ※つくば市人口:約24万人	・1963年9月の閣議において筑波研究学園都市の建設が決定